



石積み甲子園
第3回大会 開催レポート
2025年12月25日 発行

発行 一般社団法人 石積み学校

企画 真田 純子 / 金子 玲大
編集・デザイン 板東 ゆかり
写真 中地 シュウ

All Right Reserved
© 2025 石積み学校

DRY STONE WALLING SCHOOL OF JAPAN



石積み甲子園

Dry stone walling school of Japan

第3回大会
開催レポート

NOVEMBER 2025

開催趣旨

棚田や段畑は、地域の文化的資源ですが、それらを構成する石積みの技術はほとんど継承されていません。一方で、空石積みは自然の素材だけを使用する、構造物に隙間があるなどの点で、持続可能な自然環境に寄与する工法でもあります。

一般社団法人石積み学校では、技術の継承と風景の保全を目的に、2013年から全国各地でワークショップを開催してきました。そうした活動のなかで、もっと若い人たちにも技術を伝えたいと考え、「石積み甲子園」を開催することにしました。

石積みにはチームビルディングや現場のマネジメントスキル向上など、多くの学びが期待できるほか、高校生が石積みを実践することで各地の石積みが修復されます。また、大会という形にすることによって、石積みという共通スキルを持った各地の高校生どうしがつながること、競技を応援する大人たちにも石積みの理解が広がることも期待できます。

開催地域のご理解、協賛企業や協力者のご支援により、「第3回石積み甲子園」を開催することができました。

大会概要

2025.11.1～11.2

石積み甲子園

農地の崩れかけている石積みを各チームが修復し、その技術を競う。

競技形式・審査基準

競技は5人が1チームとなって定められた面積の石積みを崩し、再構築する。

4人の審査員が「技術の正確さ」、「作業の効率性」、「石積みの美しさ」、「現場の管理」の4つの観点から審査する。

開催日時

1日目 | 11月1日(土)

13:00 現地見学会

17:00 交流会

2日目 | 11月2日(日)

9:00 開会式・競技開始

10:00 出店エリア開場

12:00 昼休憩・中間講評

15:00 出店エリア閉場

15:30 競技終了・閉会式

開催場所

高知県四万十町大井川788周辺の農地

参加校

愛媛大学附属高等学校

愛媛県立伊予農業高等学校

高知県立安芸高等学校

高知県立四万十高等学校

徳島県立城西高等学校神山校



事前学習

2025.7~10

各校1回ずつ近隣の農地で修復の事前講習を実施した。その後、各校には最低3回の自主練習を課し、自主練習期間中も質問に答える等、フォローアップをおこなった。

高知県立四万十高等学校

2025年7月15日(火)に近隣の住宅裏の崩れている石積み、石積み学校の金子と地元農家の畑氏の指導の元、事前実習として修復した。これ以降、畑氏の指導の元、石積みの実習を複数回実施した。

高知県立安芸高等学校

2025年8月8日(金)に近隣の畑の石積み、金子と地元建設会社の株式会社磯部組の指導の元、事前実習として修復した。これ以降、株式会社磯部組の指導の元、石積みの実習を複数回実施した。

愛媛県立伊予農業高等学校

2025年9月29日(月)に西予市明浜の柑橘農地の崩れた石積み、地元の石積み修繕士の亀井氏の指導の元、事前実習として修復した。なお、参加メンバーは選択授業で石積みを実施していた。

徳島県立城西高等学校神山校

2025年10月1日(水)に近隣の石積み、積みながら、金子のアドバイスを受けた。なお、参加メンバーは年一回の授業で石積みの経験があり、自主的に放課後に近隣の農地の石積みで練習をしていた。

愛媛大学附属高等学校

2025年10月19日(日)に西予市明浜の柑橘農地の崩れた石積み、亀井氏の指導の元、事前実習として修復した。



高知県立四万十高等学校



高知県立安芸高等学校



愛媛県立伊予農業高等学校



徳島県立城西高等学校神山校



愛媛大学附属高等学校



1日目

2025.11.1(土)
現地見学会・交流会

参加校の学生と先生、地元関係者、大会関係者、協賛企業関係者など合計約70名で宿泊場所にも利用したキャンプ場、ウエル花夢にて交流会を実施した。

各校の紹介や石積みの取り組みの発表の後、地元の商店「ショッピングみたに」さんによるカツオのたたき等の料理が鉢に盛り付けられる特産料理「皿鉢(さわち)」に舌鼓を打ちながら交流を深めた。



2日目

2025.11.2 (日)
競技

情報共有の重要性を学びました。上から見て隙間がないかを石を積んでいる仲間に伝えたり、隣り合ったスペースで作業をする他校とのやり取りも必要でした。(参加者の声)



一人でできないことでも、仲間がいてくれたら乗り越えられるということ、身をもって体験できました。(参加者の声)

競技は9時から15時まで実施した。12時には審査員による中間レビューで注意点や傾向を共有し、適宜技術的な解説を加えた。事前に新聞やラジオで報道されたこともあり、地元内外から多くの観戦者が来訪し、最も多い時は選手を含めて150人程度が現場周辺に集まり、盛況のうちに競技を終えた。

競技結果

どのチームも昨年以上に技術レベルが高く、非常に高いレベルの競技となった。準優勝以下は甲乙つけ難く、どのチームにも素晴らしい場面があった。

今回の順位は、積み石のお尻が十分に下がっているか、周囲の積み石ときちんと噛み合っているかなどの基本技術を徹底していたかが決め手となった。



優勝
徳島県立城西高等学校神山校
卓越したチームワークと洗練された段取り、基礎から仕上げまで一貫した高い技術力で、非の打ち所がない石積み完成させた。



準優勝
愛媛県立伊予農業高等学校
全員が全工程をこなせる高い現場対応力を見せ、序盤の苦戦を跳ね返す見事な判断力と修正力で、整った石積み築いた。



準優勝
高知県立四万十高等学校
初出場ながら驚異的な技術習得の早さと抜群の連携力を発揮した。根石を置くまでが早く、状況に応じた臨機応変な対応が光っていた。



愛媛大学附属高等学校
基本の積み方を忠実に守る姿勢とグリ石を丁寧に詰めていた。現場での試行錯誤をチーム全員の粘り強い協力で乗り越えていた。



高知県立安芸高等学校
唯一の布積みを基本とした積み方で、レベルの高い役割分担と工程管理によって、迷いのない作業で最も早く石積み仕上げた。

審査員コメント

開催を重ね、どのチームも石の選別や段取りといった裏方の作業の質が格段に向上していました。石の形は良くなかったにも関わらずうろたえることなく着実に作業を進めていて、大会までにたくさん練習を重ねてきたことがよく分かりました。

協賛企業の声

現地に行って本当に良かったです。石積みを中心に継承していくかを考えて取り組まれている皆様、真剣に石積みに向き合う高校生達の姿、それをサポートしている地域の皆様に感謝を受けました。表彰式の時には涙ぐんでいる学生もいて、懐かしさを感じました。





競技会場の近くの大井川住民センターでは、協賛企業による自社紹介や、地元飲食店による焼き菓子、コーヒー、フォー、パン、焼き鳥、みかん販売等のブースを設置し、応援に来た方々に楽しんでいただき、石積みに関心のある方々の交流が生まれた。

展示エリアでは協賛企業の自社紹介パネルを設置して広く広報する場を設け、商談が始まる場面も見られた。



また、出場校を紹介するパネルを設置し、稲刈りやICT建設機械の操縦、森林や河川をフィールドとした特色ある授業や地域みらい留学など中山間地の立地を活かした高校の取り組みを紹介した。

主催者ブースでは、ミニチュアによる石積み体験と石積み解説パネルの展示などを通じて、石積み技術の普及活動を行った。



出店ブース

ライフショップ松下 / トコトコ屋 / 山間屋 / 亀井柑橘

企業ブース

環境工学株式会社 / 株式会社菅組 / 株式会社竹中工務店・株式会社竹中土木



第3回石積み甲子園を終えて

無事に第3回石積み甲子園を終えることが出来ました。3回目ということで、高校1年生から出場しつつも優勝を逃してきた生徒が初優勝を飾るなど、続けることによるドラマもありました。また、今年は地元の企業や農家と協力して練習したチームや、練習で地域の農地を修復したチームも複数あり、当初から目論んでいた「大会が農村環境の維持に貢献する」という副次的な目標も、実現しつつあると感じ取れました。石積み甲子園の開催にあたり、ご協賛いただいた企業や、ご後援・ご協力いただいたすべてのみなさまにお礼を申し上げます。ありがとうございました。石積み文化の継承と農村環境の保全に資することを目指し、今後も開催していきたいと思っています。



協賛

建設が、好きだ。

奥村組
OKUMURA CORPORATION

 竹中工務店 竹中土木

 大日本ダイヤコンサルタント株式会社
Dia Nippon Engineering Consultants Co., Ltd.

  **O EAU**
ichinomiya O EAU
荒川化学工業株式会社

 **株式会社 菅組**

 環境工学株式会社

光海陸産業株式会社

有限会社松元建設

個人協賛していただいた方々

協力

公益財団法人四万十川財団
四万十オートキャンプ場ウエル花夢
ショッピングみたに
ライフショップまつした
トコトコ屋
山間屋
亀井農園
やたて旅館 他

後援

四万十町
高知県
農林水産省
国土交通省



お問い合わせ

今後の開催に向けて、参加に興味のある高校からのご相談や、開催趣旨にご賛同いただける企業や個人の皆さまからの協賛・支援のご連絡・お問い合わせを受け付けております。ぜひ気軽にご連絡ください。

info@ishizumischool.com / 090-7100-6638